

家族や地域の方と語り合うきっかけに

相馬綾佳さん（筒地）

「わたしたちの町には、どうぶつのための道路があるんだって!」、テレビを見ていた小学生の娘が嬉しそうに話してくれました。私も時期を同じくして広報紙で平成の森のアニマルパスウェイの取り組みを読んでいたのも、そのままSDGsの話題で盛り上がりました。幼い頃から回覧板で広報紙が届くと、知り合いはいないかな?とページをめくったものですが、広報紙離れはどこ家庭にも存在するなと感じます。那須町文化財地図を見ても、町の歴史の深さ尊さは圧巻です。子どもたちの通う小学校では高久地区の歴史を学ぶ活動がありますが、歴史を近くに感じられる時間は貴重であり、分かりやすい解説で次の世代にもずっと語り継がれていってほしいと願うばかりです。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域の行事が簡素化、中止になることが当たり前になってきた昨今、広報那須が家族や近所の方たちとの語り合うきっかけになるとことを期待します。歴史の事、町の出来事が他人事ではなく自分事になり、愛情も増すのではと思います。大切に保管しておきたい号が、どの家庭もあることを願っています。

移住・定住に関する専用ページを

土肥義則さん（大同）

広報紙をモニターの目線で見させていただいたおかげで、広報紙の重要性と将来性をより感じた次第です。当初の紙面は文字が多い印象を受けましたが、段々と写真やイラストが多く入れられ紙面が柔らかく読みやすくなってきました。また最近の傾向として他の市町村情報や、葉山などの御用邸繋りの提携紹介も増え、広報紙が外へ広がっていく兆しが感じられます。そこで提言ですが、那須町が取り組んでいる人口減少を防ぐ対策の一つである移住・定住の促進について、2018年に発行されたPR冊子がありますが、年月が経つと内容も古くなり、冊子そのものが忘れられます。その点広報紙は毎月発行している強みがあり内容も新鮮です。そこで広報紙の中に移住・定住を加味した専用ページを作り、他県の人が見ても那須町に来てみたいと思わせる記事が常に掲載されていれば、広報紙は大いに貢献できると思います。そうなれば私が首都圏の知人に見せたいページをネットで直ぐに送ることも出来ます。那須町の人口減少を打破するには、広報紙のポジションを生かしたチャレンジを試みることも必要かと思われまます。

自発的に公務員の報酬削減を

森進さん（羽原）

2022年、岸田内閣がスタートしました。さまざまな国難問題は、町民一人ひとりが我が身にも少なからず降りかかっていることをしっかり考えなければなりません。全てを忘れてのんびり暮らしたいと思う反面、性格上、何かを言わないと落ち着けない己の性格に自分ながら手を焼いています。苦言中の苦言になりますが、公職の方々の給与・賞与等がコロナ禍においても100%支給されていることについて、少なくとも30%カットをお願いできないかと思えます。国民がこのコロナで生活苦を含めて^{へきえき}辟易している状態です。その苦難を想い、自発的に公務員の方の報酬削減を一考願えれば幸いです。ちなみに近況生活の一端を。昨年10月頃、家の下屋に親猫が連れてきたのか、誰かが置いていったのか、子猫が捨てられていました。最初は近寄りもしませんでした。今は妻に抱っこされるようになりました。されどまだ家の中には入らず、この寒気の中、外の猫小屋で暮らしています。2匹で寄り添って寝ていますが、風邪などを引かないか心配です。猫の好きな方、よろしければお譲りします。

健康診断、忘れずに予約を

森隆政さん（西町）

私事で恐縮だが、妻が二年余の闘病を経て亡くなった。病気は肺がんのステージ4。見つかった時には既に3センチくらいの大さきになっていて頸椎等にも転移していた。何故、もっと早く見付けてやれなかったか、後悔は募るばかりだ。妻は病院が嫌いで体調が悪くてもなかなか病院に行かない。どこも悪くないのに身体を^{へきえき}検査される健診等はずっと嫌だった。私は毎年人間ドックを受けていたので何度も行こうと誘ったが、頑として行かない。せめて町の健診を受けたらとしつこく勧めて渋々出掛けるといった具合だ。だが、がんが見つかった頃にはまた健診にも行かなくなっていたと思う。健診等を受ければ、必ず重大な疾患が見つかるとは限らない。それでも、受けた方が何もしないで放置しておくよりは医学的見地から必要な機器を使って診断するので、発見の確率は飛躍的に高まる。妻も健診等を受けていればもっと早くがんが見つかり、転移もなく手術で取り除けたかもしれない。来年度健診の案内が届いた。私のような後悔をしないためにも皆さんも忘れずに予約の申し込みをしてほしい。広報紙でも定期健診の重要性をもっと周知すべきだと思う。